

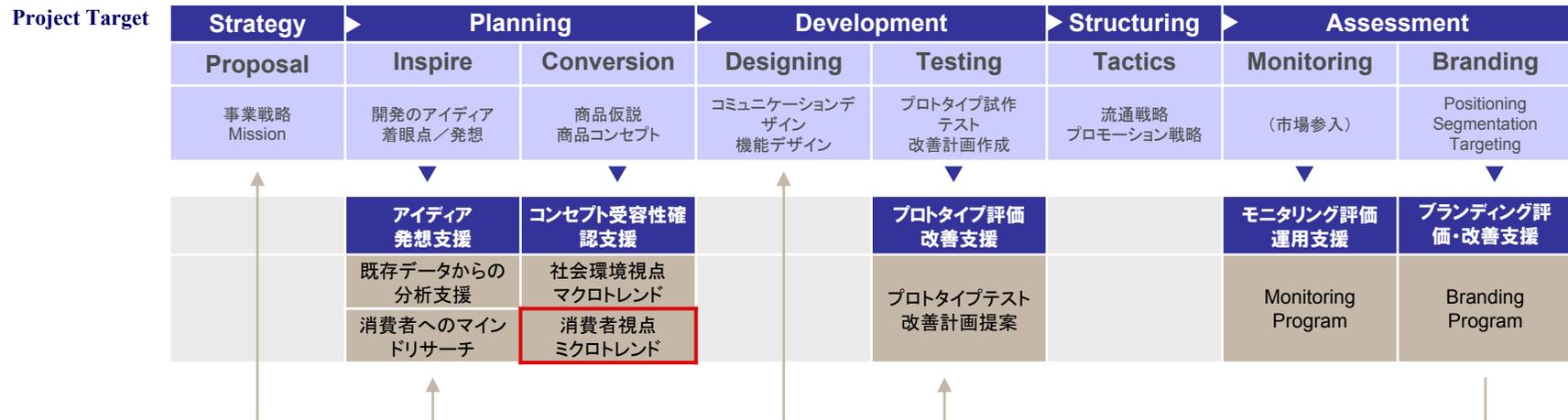
グループインタビュー調査 デブスインタビュー調査



Solution Over View

ソリューションのご紹介

関与の高いヘビーユーザーやポテンシャルユーザーに対する対面インタビューにより、直接的に製品受容性やトライアル阻害要因などを確認を行ないます。定量調査とは異なり、対象者の回答に臨機応変に質疑を繰り返すことができるので消費者へのより深い洞察を得ることが可能です。インタビュー会場／インタビューワー／速記録など調査に必要な準備をすべてお任せいただけるソリューション・パッケージです。



定性調査:グループインタビュー／デプスインタビュー

■ 概要

グループインタビュー調査は6人前後の少数の集団に司会者(モデレーター、インタビュワー)が関心のある問題について行なう面接調査です。モデレーターは話し合いをリードし、話題を提供して消費者の心理態度や意識を聞き出していきます。

グループインタビューが6人前後の集団に対する面接調査であるのに対し、デプスインタビューでは1対1のインタビューとなり、より深く質問を時間をかけて行なうことができる調査方法です。

ELBでは外部調査会社と連携し、対象者のリクルーティングから会場手配と実査に必要な準備(モデレーター、速記録者の手配)、実査運営、ご報告までをサポートしています。

グループインタビュー調査の例:

- ・どのように商品を利用しているのか知りたい。また利用方法の工夫やアイデアなど新しい使い方の発見につなげたい
- ・試作品を実際に手にとってもらい、使い勝手や改善点などの意見を聞きたい

など

デプスインタビュー調査の例:

- ・自分の健康状態についての不安や悩みなど、話しにくい話題に関する内容について質問したい
- ・商品コンセプトの方向性を確認するために消費者の行動の意識にある潜在的なメカニズムを知るために時間をかけてインタビューを行なって情報を集めたいとき

など

■ 特徴

定性調査の特徴

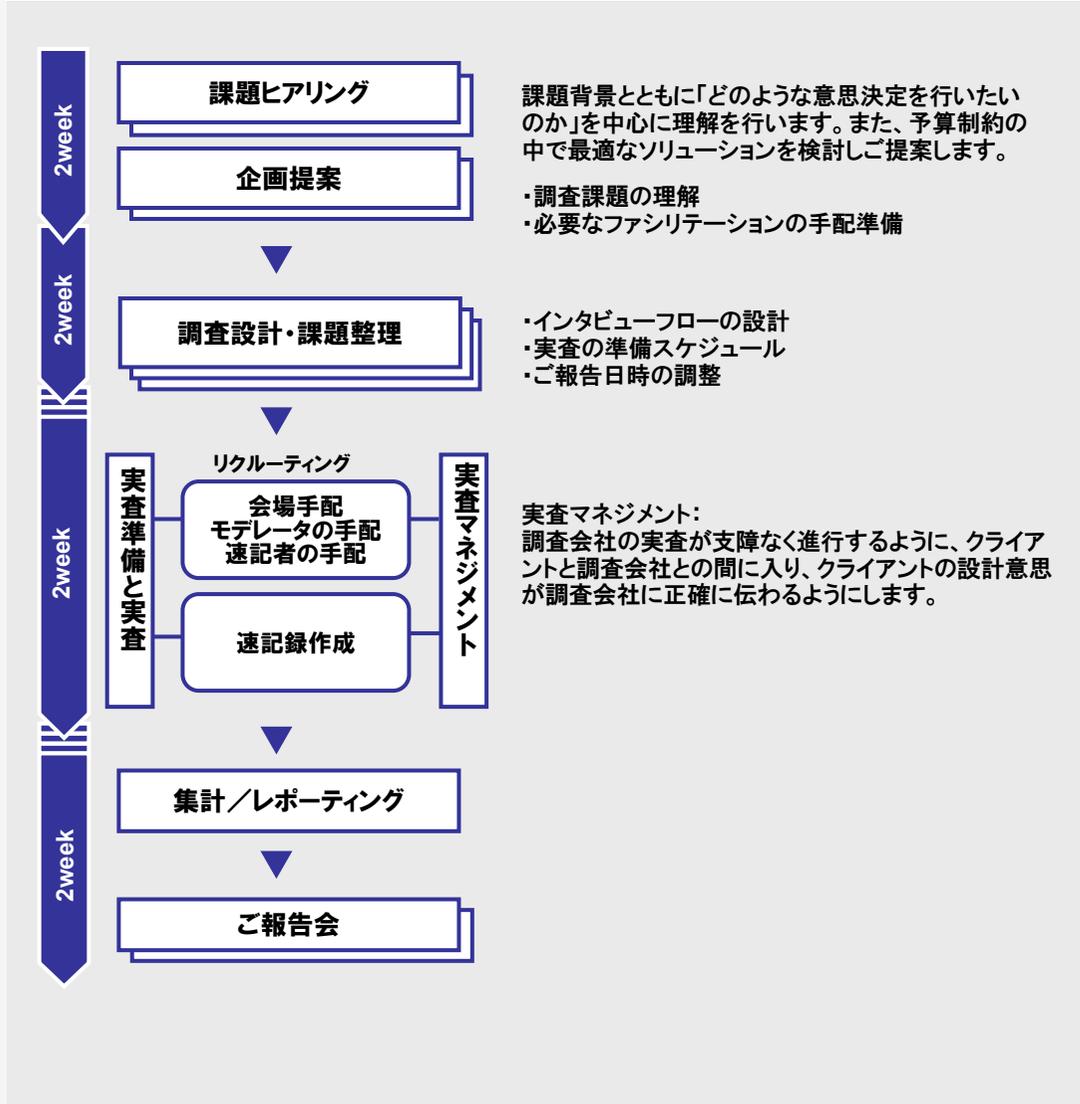
- 定量調査では把握することの難しい、消費者の行動や意識に関する「なぜ？」をインタビュワーが臨機応変に対応することで、より本音に近い意見に迫ることができます。
- 実際の商品の利用者と接することで、商品開発に重要な消費者目線の感覚を体感することができます。
- 会場のバックヤードではミラールームや、カメラによるモニタリングを行い、インタビューの状況を観察することができます。

調査品質の維持

- 守秘義務契約を結んだ対象者による調査となるので秘匿性の高い試作品や商品コンセプト案などの機密情報の管理が行いやすくなっています。
- 各業界・商材に見識の深いモデレーターを手配することでインタビュー内容を高め、より満足度の高い調査を実施することができます。
- インタビューの記録は速記録者を手配し、対象者の発言内容を調査終了後数日でお渡しすることができます。このほかビデオ撮影、ICレコーダーなどによって調査を振り返ることも可能です。

CLT調査によるプロトタイプテスト

■ PJワークフロー



■ 備考

- ・インタビュー時間は1.5時間程度の調査となります

■ 導入実績

■ 関連する他のサービス

■ 概算お見積もり